

HighLight

今月の
注目

4

新しい地域医療のかたち「バーチャル・ホスピタル(仮想の総合病院)」という考え

明日への地域医療 いやしの里診療所の取り組み

本町唯一の公設公営診療所であるいやしの里診療所。「ふじのくにねっと」による遠隔診療の導入は総合病院を持たない町民の不安解消と、近隣の総合病院に通院する負担解消、専門診療を受けることで得られる安心感により「地域にいながらにして専門医の診療を受けることができる」と同診療所の取り組みが患者さんに安心感を与えている。本町特有の過疎地域医療の課題に対する“遠隔診療”という新たな取り組みを紹介する。

- ▶生活健康課・住民生活室
☎0547(58)7070
- ▶いやしの里診療所(小長井)
☎0547(59)2102

第1章

▼地域医療の現状と目指す姿

いやしの里診療所は平成19年10月、それまで開業されて長年にわたり地域医療に貢献された大石医院を引き継ぐ形で「いやしの里診療所」に改名し公設公営の診療所として診療を開始しました。

平成22年12月に3年余りお勤めいただいた管理者が都合により退職されたため、平成23年1月から島田市川根町・高木医院の故高木利昌先生に暫定的に管理者をお勤めいただき、島田市民病院、静岡県立総合病院から医師の派遣を受けて、週3回の診療を継続してきました。平成23年8月に高木先生の急逝により一時休診となりましたが、平成23年11月17日、県立総合病院の全面的なご協力により、同病院医療連携管理監の清水史郎先生に管理者をお勤めいただき診療を再開しました。

現在は毎週水曜日16時から18時、木、金曜日は9時から17時、土曜日は9時から12時まで診療をおこなっております。

医師不在の状況をつくらない

地域医療の現状として医師不足が挙げられます。いやしの里診療所も冒頭で述べたとおり常勤の医師を管理者として確保できない状況にあり

ます。

これは、医師の絶対数の不足や地域医療の重要性とは裏腹に地域に勤務する医師数が年々減少し、逆に大都市に集中する医師の偏在に原因があります。

つまり、本町のような山間部の小さな町で医療体制を維持することは非常に難しい現状です。

幸いにも本町にはいやしの里診療所を含む5つの医療機関があり、それぞれの医療機関で毎日先生方が献身的に地域の医療に当たられています。なお医療資源の不足は否めません。

いやしの里診療所においても町内唯一の公設公営診療所として医師の確保のため、専門誌への募集広告掲載など継続して行っていますが、常勤医師の確保にいたっておりません。今後医師のいない状態を作らない、つまり地域の医療が切れ目なく継続でき、安定した医療サービスの提供ができる環境作りを目指し、先生方一人一人の努力に甘えるのではなく、近隣市町も取り込んだ医療圏で本町の医療を支えていただける方法を確立する必要があります。

だれもが健やかに暮らせる地域医療の推進を目指して

川根本町は総合計画の中に保健医療分野として『ぬくもりとふれあひ

だれもが健やかに暮らせるふるさとづくり』を掲げています。

基本目標を「地域の医療機関が相互に連携しながら、生活習慣病やストレス疾患などの予防や早期治療、重症化の防止など、すべての町民が健康で長生きすることができるように、地域医療の充実を図る」としています。

この地域の医療機関の相互連携、地域医療の充実を目的として、いやしの里診療所では大きな2本の柱で地域医療の充実を図る取り組みを開始しました。

第2章

▼地域の医療を支える

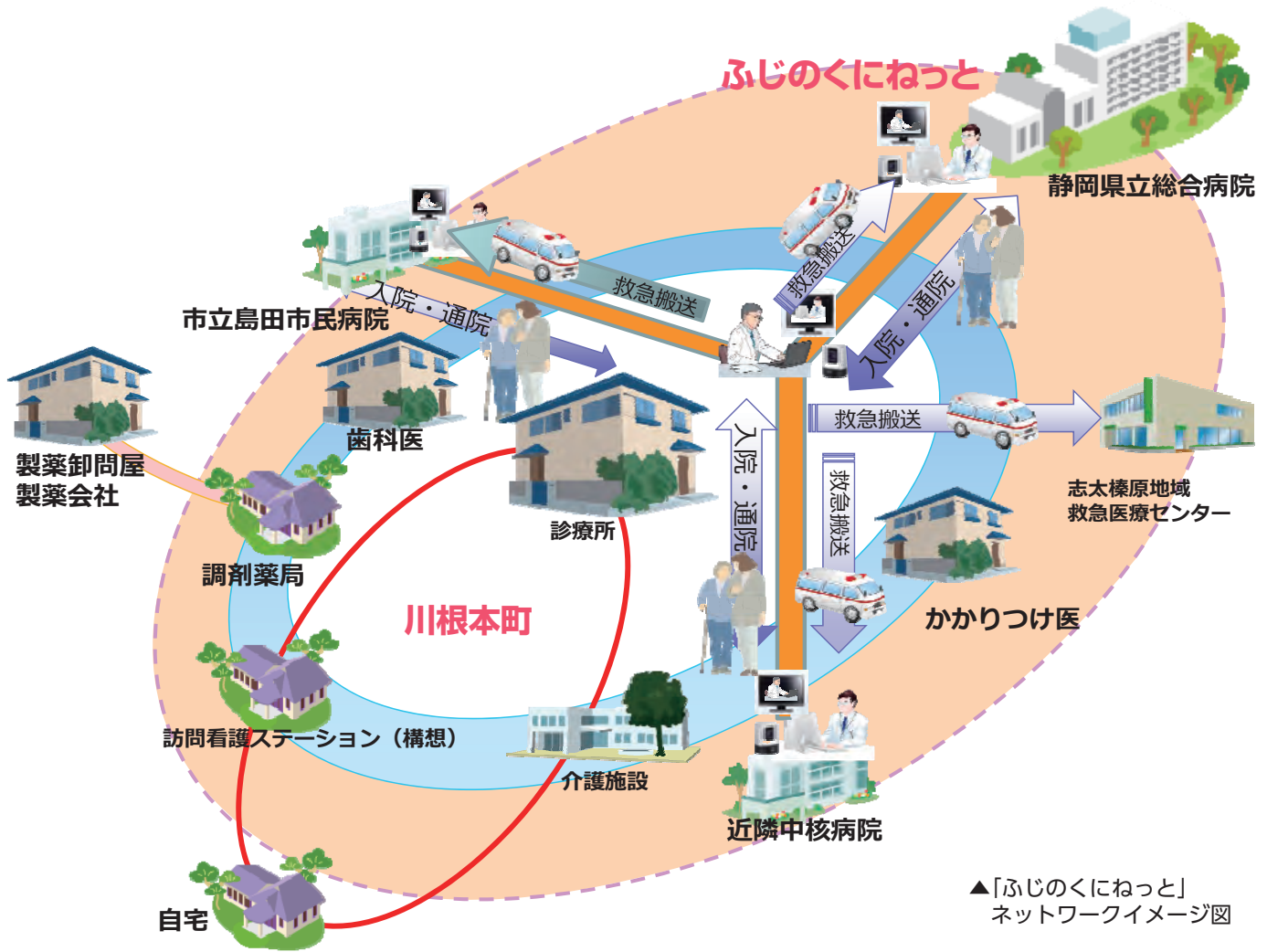
大きな2つの「柱」

①医療ネットワーク

「ふじのくにねっと」への加入

「ふじのくにねっと」は、静岡県立総合病院を中心とした県内医療機関が構成する「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」が運営する地域医療ネットワークシステムです。地域の医療機関の診療情報(カルテ、レントゲン画像等)を相互に閲覧でき、患者情報をネットワーク上で共有することが可能です。

診療所で診察を受け、近隣の総合病院へかかる場合など、診療所でレ



▲「ふじのくにねっと」ネットワークイメージ図

ントゲン撮影などをして、紹介先の総合病院で再度レントゲン撮影をするなどの時間を省くことができ、患者さんの通院時間の短縮や経済的負担の軽減が可能です。

また、一人の患者さんに対し診療所、総合病院の医師が相互に診療履歴などを元に治療方法を考えることができ、今まで一人の医師にかかっていた負担を何人かで分担することが可能です。地域医療の最前線の医師には精神的負担の軽減が見込まれます。

さらに急病に見舞われ救急搬送される際にも、総合病院到着時まで過去の診療履歴を参照できることで、既往症の有無、投薬の状況など急病の原因となる内容の確認などが受入れ時までに行えることから、到着後遅滞なく救急対応を受けられるなどのメリットもあります。

いやしの里診療所は町内他の医療機関に先駆け、電子カルテを整備し、診療所における診療情報を開示し、他の医療機関から情報を閲覧してもらえる「開示施設」として昨年9月1日から取り組みを開始しました。現在は静岡県立総合病院への開示・閲覧を中心に活用しておりますが、来年度以降島田市立島田市民病院も開示施設になる予定であり、島田市民病院との連携がさらに充実することが予想されます。

昨年10月には町内調剤薬局も参照機関としてネットワークに参画して、診療情報をもとに、より充実した服薬指導ができる環境となりました。

川根本町内の医療機関についても一部「ふじのくにねっと」に参画しており、将来の情報開示に向け整備を推進していく予定です。これが実現しますと町内医療機関はネットワークでつながり、どこの医療機関で受診してもこれまでの診療履歴をもとにし、あたかもかかりつけ医院のように受診いただくことが可能な環境になります。

② 専門科目の遠隔診療支援

双方方向の映像、音声で、遠距離2点間のコミュニケーションを図ることが可能な「ビデオ会議システム」を静岡県立総合病院、いやしの里診療所に整備し、このシステムを活用した専門科目の遠隔診療支援を4月から取り組んでおります。

これは、情報通信技術を駆使し、質の高い充実した医療サービスの提供を目的としたものです。診療所で疾患として多い循環器の診療を毎週木曜日の午後、腰痛など整形外科の診療を毎月第4金曜日に県立総合病院にいる専門科医がビデオ会議システムを使って診療しています。

遠隔診療支援に該当される患者さんは、慢性期で症状の安定した患者